

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870101573		
法人名	医療法人社団 正信会		
事業所名	グループホームむくげ	ユニット名	南館
所在地	茨城県水戸市笠原町358-2		
自己評価作成日	令和 3年 10月 20日	評価結果市町村受理日	令和 4年 1月 19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvoCd=0870101573-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート		
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階		
訪問調査日	令和3年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

経営母体が病院の為、24時間対応や入居者様の体調の相談を随時行う事が出来る。本人の体調により母体が経営する施設に移動出来、本人も又家族の負担をなくすようにしている。施設の中のガラス戸が二重になっており又建物が平屋であり、お年寄りが住みやすくなっている。その人らしくゆっくりと生活出来る様、安心と、安らぎのある施設作りをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は経営母体が病院であることから24時間連携体制が整っている。また、看護師による訪問診療が1週間に1度あり職員や利用者の安心につながっている。職員の定着率が高く、日頃から話しやすい雰囲気づくりをしておりコミュニケーションが取れている。事業所内のガラスが二重窓のため室温の変化が少なく過ごしやすい環境になっている。共用空間にはベンチや椅子を随所に配置し、利用者が寛げるよう工夫している。運営推進会議や避難訓練を同一敷地内の事業所と合同で行い、日頃から協力関係を築いている。全職員が消毒スプレーを携帯しており入室前には必ず消毒する等、感染対策に留意している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目(南館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時、夜勤者さんの申し送り、報告と話し合いをし、その後、理念を唱和し理念に基づいた支援が出来るよう努めている。	理念を朝礼時に唱和し、職員間で共有している。利用者の訴えに沿った介護を実施しているとともに家族等との誤解が生じないようにコミュニケーションを取り信頼関係を築いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナ感染を注意して行っていないが、月2回の公民館リハビリ体操に参加している。近くの施設の交流もある。	コロナ禍前は、専門学校の研修生や中学生の職場体験等を受け入れたり、近くの公民館でリハビリ体操に参加するなどしていた。散歩時には近隣住民と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々が何時でも見学出来るよう場を作っている。人材育成の貢献として積極的に研修生や職場体験の受け入れを行っている。コロナ禍で今の所受け入れていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年4回定期的に開催し、活動状況をご家族様に配信しているが、この度コロナ感染やクラスターに用心し、なかなか開催の決断が出来ていない、折を見て開催していく。	年4回、同法人の小規模多機能の施設と合同で開催している。10月から通常の会議を実施しているが、それ以前は事業所の日々の様子を日報形式で報告していた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議担当者、生活保護の担当者、権利擁護自立支援担当者様と密に連絡を取り、相談に乗って頂いている。	要介護保険更新申請時に訪問し、入居情報を伝えたりして情報交換している。権利擁護自立支援担当者と生活保護受給者について電話で情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束拘束をしない方法を考えて実践している。玄関の施錠、やむを得ない拘束は家族に、同意書を頂いている。	管理者は常日頃より職員の教育を心掛け、小さなことでもその場で指導している。家族等の同意の上で玄関の施錠をしている。身体拘束排除に関するマニュアルがある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼の時、利用者さんに対しての、言葉(スピーチロック)使いや、動作が虐待にあたること等勉強会をしている。		

自己	外部	項目(南館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護の方が利用されている、権利擁護自立支援や後見人を付けている方もいるので、理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明し、その他の加算等は契約時に説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時要望等を伺い、サービスや運営に繋げている。訪問時や電話などの相談は、ミーティング等で話し合い、すぐに反映できるようにしている。何でも言える雰囲気づくりをしている。	面会時には、職員が家族等に、日々の状況を報告するなど、話しやすい環境作りに努めている。そこで得た意見や相談についてはミーティングで話し合い反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットのカンファレンス時、時間を作り話し合うようにしている。日頃からコミュニケーション図り、聞き出すようにしている。	職員からは随時話を聞き、必要なことはユニットのカンファレンス時に話し合っている。職員からのアイデアで昼間はユニット数を減らして見守りしやすくして運営している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々に合った勤務状況を把握し、各自が楽しく仕事ができるよう努力している。昼休みの残り番、日曜祭日手当、賞与の繁栄がある。又資格取得の支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特別勉強会として、時間をもうけてはいないが、毎日の朝礼時、その都度勉強会をしている。研修会に参加した方は、報告をして質の向上に繋げている。研修会には誰もが参加出来るよう考慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は他施設職員電話で交流し、意見交換を行っている。全体の定例会では情報を交流している。		

自己	外部	項目(南館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報提供を頂き、入居前に生活の状態を把握し、理解して介護にあたる様心がけている。本人がスムーズに施設での生活に移行出来る様又信頼して頂けるような、関係を築けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時の時、家族の要望や希望を伺い、把握する様心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人に見学をして頂くか、こちらから伺うかして、出来るだけ本人の希望や要望を聞き、信頼関係を築くようにしているが、現在まだ入居前の雰囲気を見学できる状態ではないので、玄関の写真を見て貰い雰囲気を出している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を大切にし、お互いの思いを共感し、理解していくよう過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の不安や要望に耳を傾け、利用者様とご家族の支えとなれるよう努めている。。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お手紙を出したり、電話連絡で継続的な交流が出来るよう支援している。	入居前相談記録や入居時の聞き取り調査、家族等からの情報により利用者のこれまでの馴染みの関係を把握している。知人との関係が継続するように手紙のやり取りや電話の利用を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーション時、職員が間に入り、利用者同士が話が長くするように努めている。ゲームをしたり、歌を歌ったり、様子観察をして孤立しないよう声かけている。		

自己	外部	項目(南館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移った場合等情報を提供し、継続的な付き合いが出来るよう心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを伝えられる方には、傾聴し家族に知らせ相談している。家族の意向も踏まえ自分らしさを大切に、生活出来る様家族と話し合っている。	日々の支援の中で、会話や、仕草や表情の変化を通じて希望や意向の把握に努めている。家族に聞いたり、基本情報を参考に支援している。無理強いしないケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時や入所後コミュニケーションを取りながら本人に聞いたり、生活歴の資料を参考に職員同士共有し、ケアに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活のリズムの中で、何が出来るのかを把握する様努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝礼の時の申し送りやカンファレンスを行い、介護計画を立てている。入居時、本人や家族に聞き取り、それを反映した介護計画を作成している。	家族等や本人の意向を聞き、医療関係者の意見を取り入れて介護計画を作成している。毎日朝礼時にアセスメントを行い、短期目標、長期目標共に1年で見直しを行っている。	利用者の身体状況を考慮し、介護計画の短期目標を6か月毎に見直すことを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体的状況や本人の言葉を記録している。勤務開始前の連絡帳の確認は義務づけている。本人の家族から聞き取り出来る時はそれを反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、家族の事情に即したサービスの提供に努め柔軟に対応している。病院の通院、送迎、買い物、緊急時受診、車の手配、付き添い等、その後の経過も家族に連絡している。		

自己	外部	項目(南館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館リハビリ体操、行事の時はボランティアさんに協力して頂いておりましたが、コロナ禍の中現在中止し活動しておりません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に説明をして、受診や通院はご本人や家族の希望に応じている。事業所の経営母体は医療法人であり、24時間対応できる。	契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医への受診が可能なことを説明している。協力医療機関の医師による訪問診療もあり、健診も半年ごとに行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	経営母体の訪問看護が週1回、2週間に1回の受診日、月2回の訪問診療の時に相談、アドバイスをもらう。早期発見に取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が長くなり、ダメージを防ぐ為、頻りに情報を共有し、早めに状態把握を行っている。。家族との連絡は密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、見取りはここではできない事を説明、最終的に病院で終末期を迎える事になる。入退院を繰り返すが、家族と情報を共有しながら、食事が出来なくなるまでは支援している。	「重度化した場合における対応に係る指針」で「基本的に看取りは無で、系列の病院での看取りを行う」と明言し同意を得ている。終末期には医療機関へ入院することとなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、事故発生時は対応マニュアルを把握しており、連絡を取り、病院の指示のもと、落ち着いて行動出来るよう日頃から日々心がけている。又バイタル測定する事は全職員共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練に夜間帯の火災を出来るだけ組み込んでいる。小規模多機能型居宅介護「かさばら」と合同で避難訓練を行い行動できるように心がけている。	夜間や地震を想定した避難訓練を行っている。訓練後は反省会を行い、課題について話し合っている。備蓄品はあるが十分ではない。	災害に備えて備蓄品の充実と賞味期限を記載した一覧表での管理を期待する。

自己	外部	項目(南館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格を尊重し、対応に気を付けている。プライバシーやプライドを傷つけない声掛け、さりげないケアを心がけている。	人権尊重や守秘義務について研修を行った。話し合いをするまでには至っていない。	人権尊重や守秘義務について年1回以上の研修を行い記録しておくことを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の表情や反応を常に意識し観察し、自己決定が出来るよう又難聴の方は筆談で行い、あいまいな伝わり方にならないよう気を付けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが、自由に過ごして頂いている。本人の体調やその日の気分をくみ取り、その人のペースを考え、個別性のある支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は月1回来て頂いていつもきれいにしている。本人の意思を尊重し、洋服の選び方、ひげをそる、爪を切るなど支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえ等をして頂いている。食事を楽しく頂く雰囲気作りをしている。食事前、食後のテーブル拭きや下膳の出来る方にはして頂いている。	業者から食材が届き職員が調理している。利用者は野菜の下ごしらえやテーブル拭きなどを手伝っている。季節ごとの行事食を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を立てている。水分量、食事摂取量を記録、糖尿病や透析をしている方の健康に気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前のうがい、食後の歯磨き、義歯洗浄は個人個人に応じて行っている。月1回の訪問歯科もある。		

自己	外部	項目(南館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を記入し、声掛け誘導にて、出来るだけトイレでの排泄に向けて支援している。	できるだけトイレでの排泄を支援している。館内の散歩やラジオ体操を行い、おやつには牛乳を飲んで便秘予防に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のラジオ体操を行い、体を動かすことで便秘予防している。車椅子の方や機能低下の方は薬を処方して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者さんの希望(一番風呂に入りたい・あの人とは嫌だ)を出来るだけ聞いている。シャワー浴の方は足浴をしながら行っている。	入浴は基本週2回午前中としており、利用者の意向を聞いて支援している。入浴を拒む利用者には無理強いせず工夫をして入浴を勧めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節ごとに温度管理をし、寝具を調整し、好きな時間に休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方の際、薬辞表をいつでも見られるようファイルにしてある。職員が必要に応じて確認している。処方の変化があった時は状態変化の観察に努め又日付、名前、朝・夕薬の確認で誤薬予防している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人好きな事を把握して声かけている。イベント時はノンアルコールを提供し、楽しんでいただいている。お願いできる仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は玄関前に出て、牛乳を飲みながら、外気浴、リハビリ体操、歌などを行っている。コロナ禍にて数は少なくなってきた。	天気の良い日には敷地内を散歩したり玄関先で日光浴を行っている。年間行事計画を立てて、春は花見、秋は紅葉狩りなどに本部の車を使用して出かけている。	

自己	外部	項目(南館)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時、家族様より消耗品等の買い物の為に預かり金として、金銭出納帳を付け管理している。個人的に持っていないと不穩になってしまう方は、なくとも良い金額を家族と相談のうえ持たせている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用は訴えがあれば取り次出来るようにしている。お手紙やはがきは何時でも準備出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにホールに飾り付けをして、楽しんでもらっている。ホールに長椅子を置き、集まって過ごせる共有空間作りをしている。毎日掃除、温度管理をして清潔に気を付けている。	事業所は清潔に保たれ、加湿器や温度計で管理しており、天窓からも換気できる。広い廊下をはじめ、至る所に椅子やソファが配置され利用者は居心地よく過ごすことが出来る。利用者と職員で季節ごとに作品を作り壁面に飾り楽しんでる。小上がりの和室があり、利用者は洗濯物を畳んだり寛いだりできるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホール、畳の部屋、外の見える窓際の席などで、本人のいきたい場所に自由に過ごして頂けるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自分の好きなものを飾り、家具、テレビ等馴染みの物、使い慣れた物を置いてもらい、居心地よく過ごせるよう工夫している。	管理者は使い慣れた物品を持参してもらえよう説明している。居室入り口には利用者ごとに工夫した表札を出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリーになっており、すべての所に手すりが取り付けられている。安全の確認と自立への配慮をしている。		

(別紙4(2))

目標達成計画

業所名 グループホームむくげ

作成日 令和 4年 1月 18日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	介護計画作成にあたり、カンファレンス、モニタリングの時間が取れなかった。	モニタリングを見直し、短期目標の見直しをこまめにしていく。	介護計画作成時、モニタリングの時間を多く作り、本人や家族の要望、変化も見逃さない様にする。短期目標は6か月に改善していく。	1ヶ月
2	35	備蓄の点検と品数を多くしていく。冷凍庫の食材の点検も賞味期限の記入も怠っていた。飲み水と洗剤、賞味期限のはっきりしている物しか記入していなかった。	災害時3日間は生活出来る様準備しておく。	備蓄を増やし、見直していく。食事や排泄などのオムツや紙パンツ等々賞味期限の記入を表にし在庫確認をしておく。	1ヶ月
3	36	勉強会としての記録はない、朝の朝礼時に問題が発生した時はその場でその議題について話し合ってきた。記録はしていなかった。	1年間の議題は職員で考え、施設の勉強会として計画していく。	年間の議題を計画し、全員が参加出来る様にし、記録を残していく。 守秘義務の誓約書を職員は交わしている。	2ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。